

2023年5月3日

立教大学国際学術研究交流制度
2023年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	外国語教育研究センター・教授
	氏名	新多 了
受入学部・研究科・研究所		外国語教育研究センター
招へい 研究員	所属・職	Reader, Centre for Research in English Language Learning and Assessment, University of Bedfordshire 所属機関所在国：英国
	氏名	Fumiyo NAKATSUHARA
招へい期間		2023年4月2日～2023年4月22日（21日間）
研究経費		637,890円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2023/4/2	来日
2023/4/6	言語テストセミナー①："Towards more valid assessment of online speaking skills in English"（会場：太刀川記念館1階会議室、参加者数15名）
2023/4/6	研究の打ち合わせ
2023/4/15	公開シンポジウム「英語スピーキングテストについて考えてみよう」基調講演（会場：マキムホールM301、参加者数103名）
	研究の打ち合わせ
2023/4/20	言語テストセミナー②："Practical tools to teach, assess and give feedback on students' interactional skills in English"（会場：太刀川記念館1階会議室、参加者数18名）
2023/4/20	研究の打ち合わせ
2023/4/22	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

1. 公開シンポジウム「英語スピーキングテストについて考えてみよう」（2023/4/15 開催）

今回の中津原氏来日の機会に、研究者・英語教師だけでなく、広く一般参加者も対象とした英語スピーキングテストをテーマとするシンポジウムを開催した。中津原氏には「英語スピーキングテストって、何？」と題し、どのようにテストが作られ、採点され、改善されているのかなど、テスト作成と実施の基本について、研究者の視点から説明していただいた。

また、第2部のシンポジウムでは、英語テスト研究の第一人者である澤木泰代氏（早稲田大学）と小泉理恵氏（筑波大学）、また優れたスピーキング教育の実践で著名な布村奈緒子氏（ドルトン学園中高）と福田恭久氏（都立西高校）と共に、スピーキングテストと授業に関するパネルディスカッションを行った。

会場定員（120名）を超える参加者から事前申し込みがあり（実際の参加は103名）、また日経新聞、共同通信など複数のメディアからの取材もあり、本テーマに関する関心の高さがうかがえた。また、大学の研究者、小中高大学の英語教員の他、民間の塾や予備校の関係者、AIを用いたオンラインスピーキングテストの民間企業開発者、また中学生、高校生、大学生の参加など、幅広い立場の方にご参加いただいた。

講演およびパネルディスカッションを通じて、100年以上に及ぶ言語テスト研究の知見をもとにスピーキングテストが作られていること、一つのテストを作るのに多くの時間とエネルギーがかけられ、常に改善の努力が試みられていることなどが、スピーキングテストについて参加者と理解を深めることができた。

2. 言語テストセミナー（2023/4/6, 20 開催）

以下の2回の英語による言語テストセミナーを実施した。

1. "Towards more valid assessment of online speaking skills in English" (2023/4/6)
2. "Practical tools to teach, assess and give feedback on students' interactional skills in English" (2023/4/20)

シンポジウムとは異なり、英語教育および言語テストの専門家を対象に、オンラインでの英語スピーキング（セミナー1）とインタラクション能力（セミナー2）について、最新の研究について中津原氏にご紹介いただいた。大学の研究者や英語教員の他、大学で日本語教える教員や大学院生、また英検や Cambridge University Press など、幅広い立場から活発な議論が行われた。

3. 本学の研究・教育活動への効果

今回英語スピーキングテストに関するシンポジウムを開催し、多くの参加者を交えて理解を深められたことは、本学が入試に英語4技能試験を活用する意義を確認するとともに、本学が英語についてしっかりと学び、意欲を持った学生を受け入れたいと考えていることを伝える機会となった。中津原氏と2020年から共同で取り組んできた研究について対面で議論する機会を持つことができた。また、このシンポジウム・セミナーを通じて多くの言語テストの研究者および英語教育実践者と交流を深めることができ、今後の教育・研究活動に多くの示唆を得ることができた。